

●関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

高等教育活性化シリーズ 423 (通算 755 回)

2021年10月29日(金)

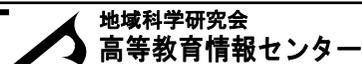
# 大学DX、オープン&クローズの情報基盤 — 研究データポリシーの策定と管理・公開・利活用

～世界の潮流/政策シナリオ/団体・大学の取組み/学内合意/研究現場を元気に～  
※ 研究DXの実現に向けて～新たな研究パラダイム/データの重要性/共通研究データ基盤/今後は  
※ 学術情報流通変革/加速するオープンサイエンス/国際的潮流、国内の動きと啓発/大学への期待  
※ 大学における研究データポリシー策定の必要性/策定ガイドを詳解/これからのデータガバナンス  
※ 大学における組織的RDM/研究者から見たRDM/組織的RDM推進の具体方策/少し先の展望

● 講師陣 ●

- 深澤 良彰 氏 / 早稲田大学 理工学術院 教授 文部科学省 情報委員会 主査代理  
(一社) 大学ICT推進協議会 (AXIES) 会長
- 林 和弘 氏 / 科学技術・学術政策研究所 データ解析政策研究室 室長  
学術情報流通推進委員会 委員 SPARC JAPAN セミナー企画WG 主査
- 船守 美穂 氏 / 国立情報学研究所 情報社会関連研究系 准教授  
オープンサイエンス基盤センター 政策・連携担当  
AXIES 研究データマネジメント部会 副査
- 青木 学聡 氏 / 名古屋大学 情報連携推進本部 教授 AXIES 研究データマネジメント部会 主査

2021年10月29日(金) オンライン開催



日時：2021年10月29日(金)

10:00 ~ 16:30

会場：ウェブ会議システム

「Zoom」によるオンライン開催

※会場での開催から変更となりました。  
ご注意ください。

- 参加費：A. ご一名(資料代込) 42,000 円(税込)  
B. メディア参加(資料・音声 CD 送付) 44,000 円(送料、税込)  
C. 高等教育同人(☆) 22,000 円(税込)

- ※ メディア参加とは、開催当日に聴講が難しい方の参加形式です。開催後に当日配布資料及び講義の音声を収録したCDを送付します。
- ※ 当日参加とともに音声CDをご希望の方には、別途販売もしておりますので、お問い合わせ願います。
- ※ 参加費の払い戻しは致しません。

☆ 高等教育計画経営研究所同人は KKJ の HP でご確認願います。

申込方法：参加申込書に所要事項を記入のうえ、FAX または E-mail にてご送付ください。

支払方法：銀行振込でお願いいたします。

- みずほ銀行麹町支店 普通 1159880
- 三菱 UFJ 銀行神田支店 普通 5829767
- 三井住友銀行麹町支店 普通 7411658

口座名 (株) 地域科学研究会

※ ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます。

申込先：地域科学研究会・高等教育情報センター

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-3-10

ライオンズマンション平河町 101

Tel: 03(3234)1231 Fax: 03(3234)4993

E-mail: [kkj@chiikikagaku-k.co.jp](mailto:kkj@chiikikagaku-k.co.jp)

HP: <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/>

(※参加申込みの折は、必ず下記事項をご記入の上、FAX か E-mail にてお送りください)

研修会参加申込書

高等教育活性化シリーズ 423

研究データポリシーの策定と管理・公開・利活用

(該当する□に✓印を) 年 月 日

オンライン当日参加  メディア参加

勤務先 \_\_\_\_\_

必要書類  請求書  見積書  領収書

所在地 (〒 \_\_\_\_\_)

(請求書等記載の宛名) \_\_\_\_\_

連絡部課・担当者名 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

メールアドレス \_\_\_\_\_

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
<p>10:00</p> <p>}</p> <p>11:00</p>	<p>□ 研究DXの実現に向けた研究データのありかたとその利用法 ～新しい研究パラダイムと大学のスタンス～</p> <p style="text-align: right;">早稲田大学 深澤 良彰</p> <p>1. 研究DXとは？</p> <p>(1) DXとは、何であって、何でないのか (2) 大学におけるDXの考え方</p> <p>(3) 従来の研究パラダイム (4) データを重視した新しい研究パラダイム</p> <p>2. データの重要性</p> <p>(1) AIとデータ (2) 教育データ、研究データ、事務データ</p> <p>(3) 研究データの重要性 (4) 不正な研究と研究データ</p> <p>3. 共通研究データ基盤とは？</p> <p>(1) 共通なデータ基盤が持つべき機能 (2) 共通研究データ基盤の現状</p> <p>4. 今後の研究DX</p> <p>(1) 研究者の視点から (2) 大学組織の視点から &lt;質疑応答&gt;</p>
<p>11:10</p> <p>}</p> <p>12:10</p>	<p>□ オープンサイエンスの深化と研究データマネジメント ～データ基盤とその利活用/大学への期待～</p> <p style="text-align: right;">科学技術・学術政策研究所 林 和弘</p> <p>1. 学術情報流通の変革とオープンサイエンスの潮流</p> <p>(1) 学術情報流通変革の振り返り (2) 研究成果と研究インパクトの多様化と多次元化</p> <p>(3) COVID-19で加速するオープンサイエンス (4) 17世紀に学ぶオープンサイエンスの本質</p> <p>2. オープンサイエンス政策と実践</p> <p>(1) 国際的潮流 (G7、OECD、UNESCO)</p> <p>(2) 国内の動き (内閣府、文科省、日本学術会議) (3) 研究データ基盤整備の実際</p> <p>(4) 啓発と、インセンティブおよび慣習づくり ～SPARC (学術情報流通推進委員会) / RDUF (研究データ利活用協議会)</p> <p>3. 大学への期待</p> <p>(1) 図書館 (2) RA、経営層 (3) 研究者 &lt;質疑応答&gt;</p>
<p>13:00</p> <p>}</p> <p>14:30</p>	<p>□ 大学における研究データポリシーとその策定ガイド ～大学におけるデータガバナンスを考える～</p> <p style="text-align: right;">国立情報学研究所 船守 美穂</p> <p>1. 大学における研究データポリシー策定の背景</p> <p>(1) オープンサイエンス、研究公正等の世界動向 (2) 研究データ管理における大学組織の役割</p> <p>(3) 大学において必要とされる研究データ管理体制</p> <p>(4) 大学における研究データポリシー策定の必要性</p> <p>2. 大学における研究データポリシー策定ガイド</p> <p>(1) 研究データポリシー、関連ポリシーの類型 (2) なぜ研究データポリシーを策定するか</p> <p>(3) 研究データポリシーの構成 (4) 研究データポリシー策定のプロセス</p> <p>(5) 研究データポリシーの付属文書 (6) 国内研究データポリシー策定事例</p> <p>3. これからの大学におけるデータガバナンス</p> <p>(1) 機関データ管理の必要性 (2) データガバナンスに見られる四役、担当部署 &lt;質疑応答&gt;</p> <p>(3) これからの大学におけるデータ管理</p>
<p>14:40</p> <p>}</p> <p>16:30</p>	<p>□ 大学における研究データ管理の体制と具体方策 ～ポリシーをどう具現化・実施するか～</p> <p style="text-align: right;">名古屋大学 青木 学聡</p> <p>1. 大学における組織的RDM振り返り</p> <p>(1) 研究公正対応の見直し (2) オープンサイエンス志向</p> <p>(3) 様々な「ギャップ」とその解消に向けたアプローチ</p> <p>2. 研究者から見たRDM</p> <p>(1) データ管理の意味と意義 (2) データ管理の方法</p> <p>(3) データ公開の意味と意義 (4) データ公開の方法</p> <p>3. 組織RDM推進の方法論</p> <p>(1) 研究データポリシー (2) RDM推進組織とスキル</p> <p>(3) トップダウン/ボトムアップ調整 (4) 各種支援組織、基盤整備</p> <p>4. まとめ - 少し先の展望 &lt;質疑応答&gt;</p>